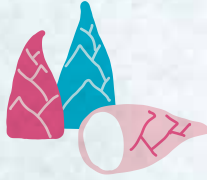




SHIBIZAN



TAKENOKO



TAKEZAIKU



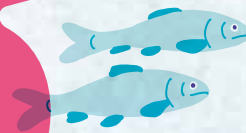
SAKURA



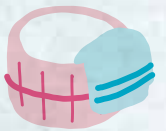
SENGOKU SHIMADZU



SATSUMA KIRIKO



AYU



ONSEN



HOTARU



MIYANOJO NINGYO



人が好き。
まちが好き。
だから、
ここで
はたらく。



さつま町 総務課

まち・ひとの 「役に立つ」を 仕事に

子育て支援が
充実してて
うれしい



住民同士の
距離が近くて
人があたたかい



自然が好きな
人には
最高の環境



さつま町は鹿児島県北西部に位置し、紫尾山をはじめとする山々に囲まれた盆地です。平成17年に宮之城町・鶴田町・薩摩町が合併し、さつま町が誕生しました。町のほぼ中心を南九州一の大河である川内川が流れ、その流域に田園や森林、温泉、市街地が広がっています。主要都市へ通じる国道3路線が町の中心部で交差し、鹿児島市まで約70分、鹿児島空港まで約40分と交通アクセスも比較的良好です。

さつま町ってこんなところ

さつま町をひと言で表すなら「コンパクトな田舎まち」。

スーパーやコンビニ、病院、銀行など生活に必要なものは町の中心部にあるので、日常生活で不便さを感じることは少ないです。物産館や農産物直売所では新鮮な地元産の野菜・果物のほか、地域のおばあちゃんが作ったお惣菜などを購入できます。スーパーよりもお手頃な商品が多く、ちょっと得した気分になることも。さつま町は人と人の距離が近いので、おすそ分けをいただく…なんてこともあるかもしれません。

町には車移動に便利な国道が3本整備されているので、主要都市への交通アクセスは良好です。買い物、レジャーなど行動の幅が広がると、さつま町での暮らしはより充実します。ホテルやタケノコ掘り、キャンプなど自然を満喫したり温泉でリフレッシュしたりと、いろんな楽しみ方ができ、自然が好き、オンオフはしっかり切り替えたいという人にはもってこいの環境です。

さつま町は、子育て中やこれから子育て予定の世帯をサポートする制度も充実しています。保育料の軽減や18歳以下の医療費助成などの支援のほか、地域ぐるみで子育てを見守り、協力しあえる環境づくりを推進しています。



町民感覚を
有する職員

チャレンジ精神を
有する職員

経営感覚を
有する職員

豊かな人間性を
有する職員

皆様、こんにちは。さつま町長の上野俊市です。

こうして、本町のパンフレットをご覧いただき、ありがとうございます。そして、就職活動をされている皆様に心からエールを送ります。

さつま町は合併から20年という節目を迎えました。町民の皆様とともに歩んできたこの20年の積み重ねを礎に、次の時代に向けたまちづくりを進めています。令和8年度からの10年間を計画期間とする第3次総合振興計画のもと、まちの将来像として掲げる「あなたの夢をまっすぐ 新たな挑戦が未来をつくる」という想いを大切にしながら、未来のさつま町を形にしていきます。

行政の仕事は、地域の未来をデザインする仕事です。「このまちで働き、暮らし、地域とともに成長していく。」その経験の一つひとつが、まちの力となり、あなた自身の可能性も広がっていきます。これからのまちづくりには、これまでの発想に捉われない新しい挑戦、いわば地域から生まれるイノベーションが求められます。皆様とともに、さつま町の未来を創っていく日を心から楽しみにしています。

さつま町長 上野 俊市



その一歩からはじまる さつま町の育休と働き方

育休って実際どう？取得のきっかけから復帰後まで、職員のリアルな声を通して働き方のこれからを考えます。

土木技師

農林課 耕地係
杉元 良成
(平成28年4月入庁)

さつま町出身。建設課を経て、農林課耕地係に配属。令和6年12月中旬から翌年8月末まで育児休暇を取得

管理栄養士

ほけん福祉課 健康増進係
谷口 朱弥華
(平成31年4月入庁)

始良市出身。入庁後、現在までほけん福祉課健康増進係に所属。令和6年4月末頃から翌年7月末まで育児休暇を取得

育児休暇を取得したきっかけ

杉元 第一子が生まれた頃、さつま町で大きな災害がありました。その時期は帰宅時間も遅く、子育てにあまり関われない日々が続いていました。妻も自分も疲弊しているのが目に見えてわかる状況で、第二子の際には育休を取得しようと、家族で話し合っていました。



谷口 私は、子どもを授かったら育休を取ろうと考えていました。赤ちゃんと過ごせる時間は限られているので、できるだけ一緒にいたいと思ったんです。杉元さんは育休を取得する前に、制度について調べたり、誰かに相談したりしましたか？

杉元 本やインターネットで、かなり調べました。育休制度についてある程度理解してから、当時所属していた課長に相談しました。ただ、その後に現在の農林課へ異動になったので、もう一度話をしなければと思っていたところ、すでに農林課の上司にもその旨が共有されていました。大変ありがたかったですね。その時には妻が妊娠中だったので、そこから具体的な時期などを相談しながら進めました。谷口さんは？

谷口 私は調べるといっても、友人や別の自治体で職員をしている姉に聞いたりしていました。公務員と民間企業とは育休制度も異なるので、自分ではなかなかうまく調べられなくて。また、職場の方には子どもを授かってしばらくしてから体調が優れず、時々お休みをいただいていたこともあり、初期の段階で係長に相談しました。



育児休暇を取得することへの不安

杉元 当時は男性で長期の育休を取得している方がいなかったため、その点には不安がありました。なかでも一番大きかったのは、復帰後にこれまで通り働けるのかという点です。ただ、女性の場合は育児をするうえで育休の取得がほぼ前提となっている状況だと思います。一方で男性は、取得期間にもある程度の融通が利きます。そうした中で、自分が育休取得後の職場復帰に不安を感じることも自体が、女性に対して少し失礼なのではないかと感じる部分もありました。女

性は多くの場合、そうした不安を抱えながら復帰しているのだと思うと、自分も向き合わなければならないと感じました。

谷口 私も育休に入るときは子育てが楽しみだったのですが、やはり復帰への不安は大きかったです。年度ごとに法律や補助金の仕組みが変わることも多く、そうした変化についていけるのか心配でした。あとは金銭面についても、産休・育休手当が支給されるまでに2カ月ほど間が空くため少し不安でしたが、手当がしっかりしていたので、想像していたよりも問題なく過ごすことができました。

杉元 育休中は職場の情報がほとんど入ってこないため、それが復帰への不安につながっていたように思います。もちろん、人によっては情報が頻繁に入ってくることを負担に感じる方もいるとは思いますが、復帰を見据えると、もう少し情報を得られる環境があるとありがたいと感じました。

谷口 最近では、育休を

取得した職員の代わりに業務を担う職員に対して、給与や賞与が少し加算される制度を導入している自治体もあります。職員は1人減るけど業務量は変わらないため、どうしても残った職員に負担がかかってしまうのが現状です。そうした配慮があることで、取得する側としても少し気持ちが楽になりますし、支える側にとっても「自分も頑張ろう」と思えるきっかけになるのではないかと思います。



杉元 いい制度ですね。取得する側の気持ちも軽くなりそうです。

周囲のサポートで引き継ぎもスムーズに

谷口 私が産休に入ったのが4月末だったため、年度が始まり、これから本格的に事業を進めていくというタイミングでの取得となりました。やらなければならないことが多い中で、の産休だったのですが、係長には早めに相談していたこともあり、事前に段取りを整えてくださいました。その後、他の方にお伝えしたのは1月末頃。「この業務はどうしたらいいか」「窓口対応はどうするか」など、引き継ぎを意識して自主的に確認してくださる場面もあって、約3カ月かけて一緒に引き継ぎを進めることができました。4月の引き継ぎとしては、比較的スムーズに進められたのではないかと感じています。

杉元 職場のみなさんのサポートには随分支えられましたよね。私が担当していた業務の中でも主となるのが災害復旧

事業でしたが、休みに入る時点で国への申請は一通り完了していました。そのため、あとは工事を進めていく段階となっていて、業務の区切りとして引き継ぎがしやすい状況ではありました。部署には経験豊富な先輩方が多く、安心してお任せすることができたので、結果としてスムーズに引き継ぎができましたね。

育休で見えた理想と現実、家族のかたち

杉元 育休中に資格の勉強をする人も多いという話を聞いていたのですが、実際はまったく時間がありませんでした(笑)。子どもから目が離せないですし、やることも多くて。勉強する余裕はなかったですね。

谷口 本当にその通りです。私も、子どもが寝ている間に勉強しようと思っていたのですが、授乳しておむつを替えて、寝かしつけてから家事をして…と過ごしているうちに、あっという間に1日が過ぎてしまっていて。本も買ったのですが、結局は途中で諦めてしまいました(笑)。出産したら、ママ友と子どもを連れてお出かけしたり、育児サークルに参加したりしようと思っていたのですが、外出するにも荷物が多くなってしまい、結果的に家で過ごすことが多かったですね。

杉元 理想と現実の違いですね(笑)。勉強は思うようにできませんでしたが、妻の大変さに気づけたのは大きな収穫でした。第一子のときも、もちろん家事や子育ては分担していた

のですが、長い時間を一緒に過ごすことで、夫婦の信頼もより深まったと感じています。谷口さんはいかがでしたか？

谷口 普段から、夫と私

でそれぞれ得意な家事を担うようにしているので、育休中もそのスタイルは変わりませんでした。夫との関係に大きな変化があったというよりも、出産をきっかけに実母や義母との関係が深まったと感じています。育児の大先輩ですからね。今は育児に関する情報があふれていて、あれこれ頑張ろうとして疲れてしまうこともありました。でも「適当でいいんだよ」と声をかけてもらえて、気持ちがすごく楽になりました。

職場に復帰して大変だったこと

谷口 育休中は子どもとばかり話していたので、日本語がうまく出てこなくなることがあって困りました(笑)。1日の中で大人と話す機会がほとんどなかったこともあり、なおさらそう

感じていたのだと思います。友人たちに聞いてみると、みんな同じようなことを話していて、少し安心したのを覚えています。杉元さんは、そういうことはありませんでしたか？

杉元 私の場合は、妻と一緒にいたことや、自分自身もバスケットボールの指導に関わっていたこともあって、育休中でも外に出る機会がありました。そのため、人と話すことに関しては、あまり苦労はしなかったですね(笑)。

谷口 あとは、パソコン操作に慣れるのにも時間がかかりました。1年前にできていたことが思うようにできなくなっていて、思い出すのに苦労しました。パソコンの操作ひとつをとっても、ショートカット

キーがなかなか思い出せず、作業に時間がかかってしまっていました。システムについても「ログインIDは何だったかな」といったところ

からのスタートで、数年ぶりにIDやパスワードを紙に書き留め直しました(笑)。最初の1カ月はとにかく思い出すことに必死でしたね。まさに“リハビリ”のような感覚でした。職場復帰はスムーズにいき

ましたか？
杉元 私が職場に復帰したタイミングでは、始良などで大雨があり、さつま町でも中津川地区をはじめとする一部地域で同様の影響が出ていました。すぐに災害対応に入ることになり、仕事の引き継ぎというよりも、いきなり現場に戻ったような感覚でした。復帰後は一気に気持ちを切り替えて、本腰を入れて仕事に取り組みました。

育休を経て変わった、私たちの働き方

杉元 以前は、例えば5時15分を過ぎても、少し作業をしてから帰ろうと思うことがありました。第一子だけの頃は、その時間に必ず帰らなければな

らないという意識はあまりなかったんですが、子どもが2人になってから状況が変わりました。今はそれぞれ別の園に預けていることもあり、夕方はどうしてもバタバタしてしまっていて。5時15分にはきっちり帰らなければ、という気持ちが強くなりました。そのあたりの意識は、以前とはかなり違いますね。谷口さんは今、時短勤務なんですか？

谷口 そうです。以前は帰る時間も自分次第で「ここまで仕事



をしたい」「これを終わらせてから帰ろう」と思えば、5時15分を少し過ぎることもありましたが、今は終業時間に帰らないと保育園のお迎えに間に合わないので、毎日が猛ダッシュです(笑)。仕事も中途半端な状態で終わると後が大変なので、時間内に終わらせるよう段取りよく進めることを意識しています。



杉元 スケジュールリングや、効率よく仕事を進めることが以前よりも上手になりましたよね。

小さなことを共有できる存在がいるのは、とても心強いです。不安もあると思いますが、それ以上にかげがえのない時間になります。ぜひ長めに取ってほしいですね。1年でも短いと感じるくらいです。

杉元 本当にそう思います。時々相談を受けることもあります。そのたびに「絶対にとった方がいい」と伝えています。よく言われていることではありますが、仕事の責任は周りで支え合うことができますが、子どもに向き合えるのは親だけです。家族やパートナーのことを考えながら、自分にとって一番良い選択をしてほしいと思います。



これから育休を考えている人へ

杉元 長めに育休を取りたいと思ったのは家族のためでもあります。自分の経験が後に続く人の後押しになればという思いもありました。今でも、第一子のときから取得しておけばよかったと感じています。まだ長期で取得する人は少ないですが、ぜひ男性にも積極的に取ってほしいですね。

谷口 私も男性の育休取得には大賛成です。特に第一子のときは、母親も初めてのことでばかりで不安が多いもの。日常の

職員の出産に伴う育児休業について

さつま町では「さつま町職員ワーク・ライフ・バランス推進プラン」を策定しており、夫婦がともに仕事と育児を両立できるよう、男性の育休100%取得や、周囲の職員がサポートしやすい職場づくりを目指しています。

育児休業は、子が3歳になるまで取得することが可能です。

休み期間と対象

対象者	子を養育する職員(性別を問いません)
回数	原則として1人の子につき2回まで分割して取得できます
期間	最大で子が3歳に達する日まで

育児休業手当金

180日まで	給料(標準報酬月額)の67%(手取り換算で約8割程度)
181日~1歳(最大2歳)まで	給料(標準報酬月額)の50%(手取り換算で約6割程度)

※育休中は共済組合などの掛金(保険料)が免除されます。
※手当金には所得税がかからず非課税となります。

男性職員向けの制度

産後パパ育休 (出生時育児休業)	子の出生後8週間以内に、最大4週間まで取得可能。2回に分けて取ることもできます。
パパ・ママ育休プラス	両親がともに育休を取得する場合、育休期間が「子が1歳2ヶ月になるまで」に延長されます。

復帰後のサポート

育児短時間勤務	小学校就学前の子を育てる際、勤務時間を短縮できます。ただし、給与は勤務時間に応じて減額されます。
部分休業	1日の勤務時間のうち、最初または最後の最大2時間を「育児の時間」として休むことができます。
子の看護休暇	子の病気や予防接種などのために、有給で休める制度です(通常、年5日)。

社会教育課 スポーツ振興係

川村 妃奈乃

(令和6年4月入庁)

一般事務職

社会教育課

丁寧な仕事の積み重ねが
まちの人の安心につながる

学生時代に頑張ったこと、 熱中したことは？

学生時代は水泳部に所属し、部活動と勉学に励んでいました。文武両道の中で培った粘り強さや自己管理能力を、現在の業務に活かしています。私は鹿屋市出身で、小学生の頃から合宿で訪れていたさつま町の自然や人の温かさに触れ「この町で誰かを支える仕事がしたい」と思ったのが、さつま町職員を志したきっかけです。

仕事の魅力や やりがいを教えてください

スポーツ振興係では、地域のサロンに出向き、ニュースポーツの指導を行っています。子どもから高齢者まで

が楽しそうに体を動かし、笑顔になる姿を見るたびに大きなやりがいを感じます。多くの町民の方と関わり、親しくなれる機会が多いことも、この仕事の大きな魅力です。

これからの目標や 意気込みをどうぞ！

役場では異動を通じてさまざまな業務を経験しますが、どの部署でも地域の方々と積極的に関わり、信頼される職員になることが目標です。新しい知識を貪欲に吸収し、一歩ずつ着実に成長していきたいと考えています。広い視野を持ち、さつま町の力になれるよう努めていきます。



イベントの会場設営なども行います。正確さとフットワークの軽さで町の健康づくりを支えています

★こんな人と働きたい★

- 人と接することが好きで、笑顔でコミュニケーションが取れる人
- さつま町のために力になりたいという熱意を持っている人

一日の流れ（例）



わたしの

こだわりアイテム

係長からいただくチョコレートです。事務作業の合間に一口でリフレッシュし、「また頑張ろう!」という前向きな気持ちで日々の業務に励んでいます。





こども課 こども支援係
年永 貴大
(令和4年4月入庁)

一般事務職

こども課

人のあたたかさに触れ
その想いにこたえ貢献する仕事

普段の主な業務内容、 気をつけていることは？

現在は児童手当の支給処理や放課後児童クラブの入所調整などの事務作業のほか、公園管理や親子教室の託児等にも対応しています。法令遵守の精神はもちろん、町民の信頼を損なわないよう正確性と公平性を常に意識し、生活に直結する行政として責任を持って業務にあたっています。

仕事の魅力や やりがいを教えてください

数年ごとの異動で業務を一から学び直す必要がありますが、その分、新たな知識や多様な場面での対応力が身につく点が魅力です。町外出身の

私にとっても、さつま町は人の温かさにあふれ、困ったときに手を差し伸べてくれる方が多く、安心して暮らしやすい町だと感じています。

受験を控えている方へ メッセージを！

公務員を受験する方は、自由に使える時間を試験勉強に充てていることと思います。プレッシャーや不安の中でもモチベーションを維持する必要がありますが、社会貢献を通じて得られる充実感は、公務員ならではのやりがいだと思います。体調に気をつけて、万全の状態で試験に臨んでください。



午前中は、メールチェックや他職員への業務の割り振りなど、事務作業を中心にしています

★こんな人と働きたい★

- 住民目線で相手の気持ちに寄り添い、町民一人ひとりの生活向上に貢献できる人
- 責任感や企画力に加え「さつま町をより良くしたい」という強い想いを持つ人

一日の流れ（例）



わたしの

こだわりアイテム

スマホの手帳アプリです。パソコンとも共有しており、外出先でもスマホで手軽に確認できるため、大変重宝しています。今の時代には欠かせない存在です。



総合政策課 地域振興係

山下 幸志

(平成27年4月入庁)

一般事務職

総合政策課

「住みたい、関わりたい」と思われる
魅力あふれる町づくりに貢献

さつま町職員になろうと 思ったきっかけは？

私はさつま町出身で、自然や人の温かさといった地域の魅力をより多くの方に伝えたいという思いがありました。小さな町だからこそ一人ひとりの役割が大きく、自分の仕事が地域の変化につながる実感を持てる点に魅力を感じ、主体的にまちづくりに関われる役場職員を志しました。

普段の主な業務内容、 気をつけていることは？

町内唯一の薩摩中央高等学校の魅力化プロジェクトを担当しています。定員割れが続く中、高校の存続は町の未来を左右する重要な課題です。

先生方や関係機関と連携し、校内への塾設置や全国から地域みらい留学生を募集するなど、県内でも先進的な取組を進めながら薩摩中央高校の魅力向上に取り組んでいます。

仕事の魅力や やりがいを教えてください

自ら考え抜いたアイデアが形となり、目に見える成果として表れたときの達成感は格別です。多くの方の協力を得ながら一つの取組を進めていく過程も魅力の一つであり、決して自分一人では成し得ない仕事を、仲間と力を合わせて成し遂げる喜びがあります。



車で各所へ向かいます。この日は薩摩中央高校で「魅力化プロジェクト」の打ち合わせを行いました

★こんな人と働きたい★

- 地域の方や関係機関など多くの人と関わる中で、相手の話をしっかり聞き、思いを大切にできる人
- 自分の考えを持ちながらも協力して物事を進められる、前向きで素直な姿勢のある人

一日の流れ（例）



わたしの

こだわりアイテム

薩摩中央高校オリジナルのトートバッグです。A4サイズの書類が収まり、会議時などの持ち運びにも便利。高校のPRにもなり、会話のきっかけにもなっています。



さつまPR課 商工観光係

穂満 綾音

(令和6年4月入庁)

一般事務職

さつまPR課

さつま町の“いいところ”を
もっとたくさんの人に届けたい

仕事の魅力や やりがいを教えてください

現在は観光情報の発信や「さつまるちゃん」のイベント対応を担当し、観光地の状況把握やホームページ更新、問い合わせ対応などを行っています。相手に分かりやすく伝えることを意識しながら業務に取り組む中で、町内外の多くの人と関わることができる点に魅力を感じています。観光客の方から感謝の言葉をいただいた際には、特にやりがいを感じます。

普段働くうえで 気を付けていることは？

入庁前は役場に堅い印象を持っていましたが、実際は職員や町民の声

が行き交う和やかな環境でした。そうした雰囲気を大切にしながら、声のトーンや表情に気を配り、来庁された方が安心して話しかけられる対応を心がけています。職員同士でも意識し、より良い空気づくりにつなげていきます。

これからの目標や 意気込みをどうぞ！

誰に対しても話を聞くだけでなく、表情や仕草にも目を配り、本当に求めていることをくみ取れるよう小さな気づきを大切にしていきたいです。まだ不慣れな業務や苦手な分野も多いため、できることから一つずつ着実に取り組んでいきます。



さつま町商工会で打ち合わせ。商工会とも連携を取りながら、さまざまな事業を進めています

★こんな人と働きたい★

- 人との関わりを大切にし、相手の思いをくみ取ろうとすることができる人
- 相手に寄り添い信頼関係を築くことができる人

一日の流れ（例）



登庁



8:30
事務作業



12:00
休憩



13:00
資料作成・
観光地の撮影・
ホームページ更新



17:15
退庁

わたしの

こだわりアイテム

観光と温泉のパフレットです。問い合わせにすぐ対応できるよう、事前に目を通し、相手が求める情報を迅速に提供できるよう準備しています。



警防課 予防係
原之藺 大輝
(令和3年4月入庁)

消防職

消防本部 警防課

瞬時に判断し、行動に移せる
頼れる消防隊員を目指して

さつま町職員になろうと 思ったきっかけは？

実際の火災現場に遭遇し、迅速かつ的確な消火活動を行う消防士の姿を目の当たりにして、「私も町民の安全を守りたい」と強く思い、さつま町職員を志しました。生まれ育ったさつま町で人命救助の最前線に立ち、町民の皆さんが安心して過ごせるよう、日々の訓練に励んでいます。

普段働くうえで 気をつけていることは？

「何事にも積極的に行動すること」を意識しています。1・2年目の頃は失敗を恐れ積極性に欠けていましたが、年々出動機会が増えるなかで「現場

で失敗しないために、訓練で失敗を重ねて学ぶ」という考えに変わりました。訓練で積極的に行動して得た知識や技術を現場で活かせるよう、今後も取り組んでいきたいと考えています。

受験を控えている方へ メッセージを！

さつま町は自然が豊かで、地域交流も盛んな明るい町です。町外出身の方でもすぐに馴染み、安心して生活できる環境だと思います。さつま町消防本部は小規模ですが、その分さまざまな経験を積む機会が多く、日々成長できる環境です。先輩・後輩を問わず、自分の意見を発信できる職場です。



学生時代に所属していた野球部で培った忍耐力やチームワークが、今でも日々の業務に活かされています

★こんな人と働きたい★

- 人と接することが好きで、笑顔でコミュニケーションが取れる人
- さつま町のために力になりたいという熱意を持っている人

一日の流れ(例)



わたしの

こだわりアイテム

机上には常にメモ帳を置くようにしています。アドバイスや指示を忘れないように書き残すことで、次の行動に活かすことができるからです。



人財が輝くまち・さつま町 未来を担う人を育てる



さつま町職員
人財マネジメント
基本方針



さつま町では、町の未来を担う職員を単なる「人材」ではなく、かけがえのない財産「人財」として捉えています。一人ひとりの成長がまち全体の力へとつながると考え、段階に応じた研修や自己啓発を通じて意欲と能力を高める機会を充実させています。

また、ワーク・ライフ・バランスの推進や働き方改革、メンタルヘルス対策などにより、安心して力を発揮できる職場環境づくりにも注力。職員が安心して働き、能力を発揮できる職場づくりに努めています。

さらに、人事評価やジョブローテーションを活用し、個々の適性や強みを引き出す人事管理を行っています。人を育み、まちの未来を創る取り組みが、さつま町の大きな原動力となっています。



成長を支える3つの人財育成

意欲と能力を高める 職員研修

自己啓発の促進

〇JTの推進(職場内研修)

Off-JTの推進(職場外研修)

能力を高め発揮できる 組織づくり

1on1ミーティングの活用

長時間労働の是正・業務効率化

メンタルヘルス対策

能力と意欲を引き出す 人事管理

人事評価制度の活用

自己申告制度の充実

ジョブローテーションの設定

+1 安心して相談できるメンター制度

新規採用職員には年齢の近い先輩職員がメンターとしてサポートします。

仕事の進め方だけでなく、職場生活やキャリアの悩みなども気軽に相談できる環境を整え、安心して成長できる体制を整えています。



+2 派遣研修の充実

国や県、研修機関への派遣研修を通じて幅広い知識と経験を培い、職員のキャリア形成と能力向上につなげます。

主な研修派遣の実績

- 〇農林水産省 〇国土交通省九州地方整備局
- 〇鹿児島県庁 〇北薩地域振興局
- 〇鹿児島県東京事務所 〇鹿児島県大阪事務所
- 〇全国市町村研修財団市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)

給与・勤務条件・福利厚生等について

初任給

(令和8年4月現在)

区分	初任給
大学卒	225,600円
高校卒	200,300円

※職務経歴等がある場合は、
左記の額に一定の基準で
加算されます。

各種手当

職員の家族・勤務状況などに応じて、扶養手当、通勤手当、住居手当、時間外勤務手当などが支給されます。

昇給

年1回(民間給与の動向に応じて給与改定あり)

賞与(ボーナス)

(令和8年4月現在)

期末・勤勉手当と呼ばれるもので、下表の割合で支給されます。

時期	支給割合
夏(6月期)	2.325月分
冬(12月期)	2.325月分
年間合計	4.65月分

※給与と同じく、民間の動向に応じて改定あり
※新規採用者の夏の賞与は0.6975月分(4月採用
の場合)

勤務時間

原則として午前8時30分から午後5時15分まで。(うち60分休憩時間あり)

○休日 週休2日制(土曜日・日曜日)及び祝日並びに12月29日から翌年1月3日

※消防本部の交代勤務等の場合は、勤務時間・休日の取扱いが異なります。

休暇

○年次有給休暇 年間20日(新規採用者で4月採用の場合は15日)

※残日数については、繰越制度もあります。

○特別休暇 忌引休暇、夏季休暇、結婚休暇、産前・産後休暇、子の看護休暇、介護休暇
など

○その他 育児休業制度など

福利厚生

○健康管理 定期健康診断(毎年実施)、人間ドック助成制度、メンタルヘルス対策

○福利厚生(互助会制度) 人間ドック助成(配偶者)、インフルエンザ等感染症予防接種助成、職場交
流事業、新規採用職員交流事業、家族等死亡時の弔慰金支給など

○共済制度 鹿児島県市町村職員共済組合の組合員となり、医療保険と厚生年金に加
入します。

関連宿泊施設利用助成制度、各種手当金(育児休業手当金など)あり

○公務災害補償 職員が公務上の災害(負傷、疾病など)又は通勤による災害を受けた場合
に、その災害によって生じた損害を補償します。

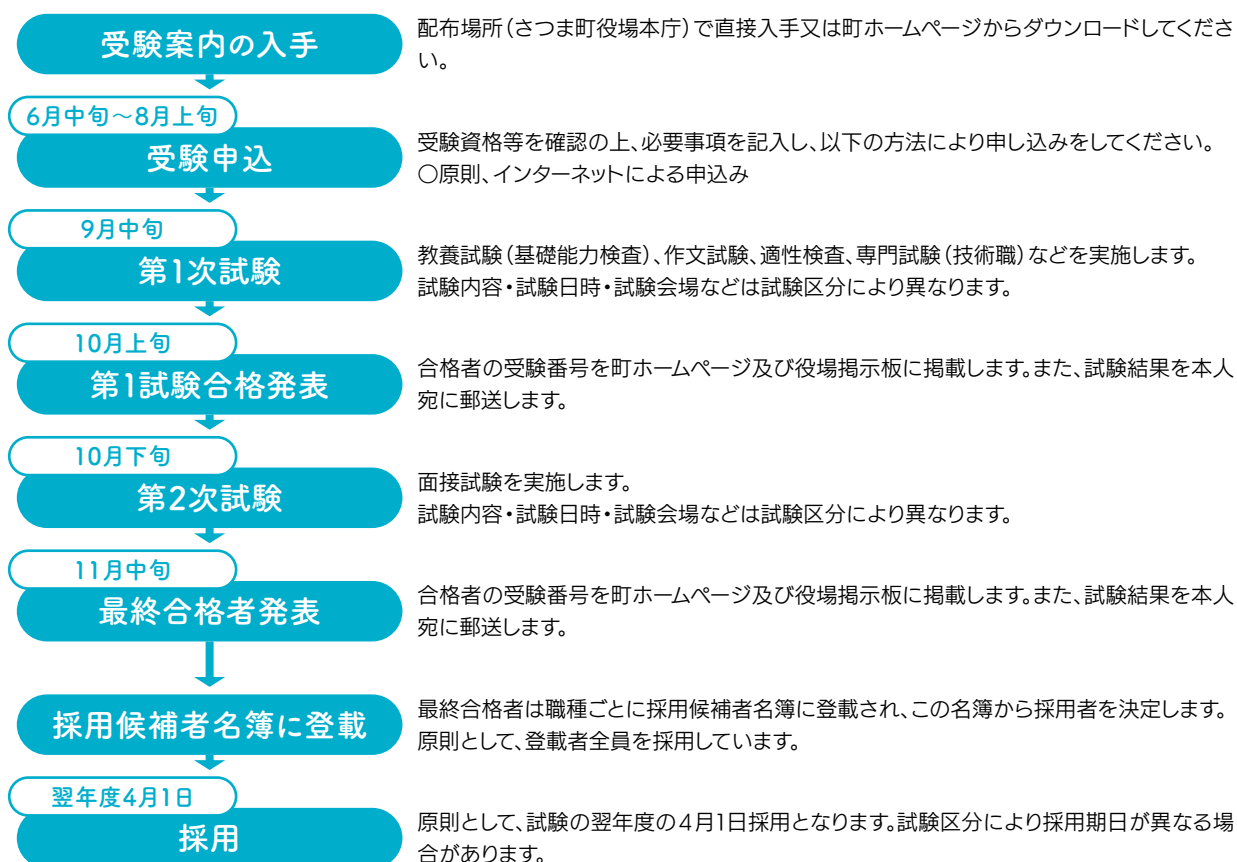
研修

自治研修センター研修	鹿児島県自治研修センターにおいて実施される研修で、県内市町村職員が 合同で受講します。 ○新規採用職員研修を始め、経験年数・役職に応じた研修 ○タイムマネジメント、キャリアデザイン、プロジェクトマネジメントなど
能力開発研修	職員の自己啓発意識の高揚を図るとともに職務に必要な能力の習得を促 進し、効率的な行政運営に資することを目的とする研修制度です。 ○パワーアップ研修(職員が個々に行う研修) ○グループ研修(複数の職員で構成するグループが行う研修)
庁内研修	新規採用職員研修、人権啓発研修、法制執務研修など
派遣研修	国・県等の機関、鹿児島県後期高齢者医療広域連合など
その他	各業務において必要となる研修会など

資格取得支援制度

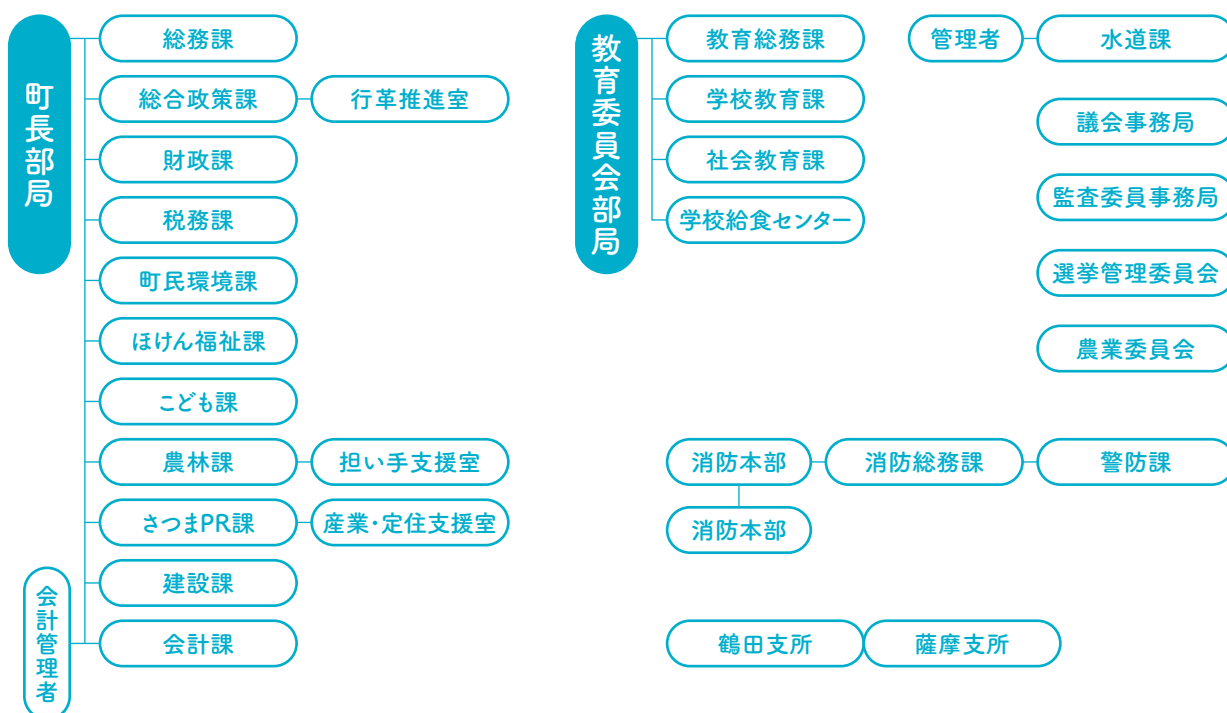
業務に必要とされる各種資格取得に要する経費を助成します。

採用試験のスケジュール（例）



※試験区分によって1次試験・2次試験の区分がない場合があります。 ※試験のスケジュールは、年度により異なる場合があります。

さつま町行政組織と分掌事務の概要





ひととまちに、ずっと貢献したい。



さつま町 総務課

〒895-1803 鹿児島県薩摩郡さつま町宮之城屋地1565番地2
TEL: 0996-24-8912 FAX: 0996-52-3514

職員採用に関する情報はこちら!

